1_試合終了後、ピッチに下りて記念撮影　2_ＧＫの林卓人（はやしたくと）選手とタッチする白石の子どもたち　3_ベガルタ仙台のマスコットキャラクターベガッ太くんとふれあい

Ｊリーガーとハイタッチ！

白石市の親子約90人をベガルタ仙台ホームゲームに招待

8月18日、白石市の親子約90人がベガルタ仙台ホームゲームに招待され、柏レイソルとの一戦を楽しみました。ベガルタ仙台では、被災地の子どもたちに笑顔と元気を届けたいと『宮城・東北Ｄｒｅａｍ Ｐｒｏｊｅｃｔ』を企画。この思いに賛同した企業や個人がサポーターとなり、サッカーを通じた被災地支援を続けています。この日は、白石市のほか栗原市と登米市の子どもたちも招待。試合前には選手たちとハイタッチを行い、Ｊリーガーを間近で見た子どもたちは大興奮。試合は、（当時）ベガルタ仙台が2位、柏レイソルが3位という上位対決に、開始から一進一退の攻防を見せ、子どもたちはスタンドから大きな声援を送っていました。試合終了後はピッチに下りて記念撮影も行い、夏休みのいい思い出となりました。

宮城・東北の代表として

白石中新体操部が３年連続で全国大会出場

▲全国大会の会場となった町田市立総合体育館前で記念撮影

7月22日、仙台市体育館で開催された「第61回宮城県中学校総合体育大会」団体競技に白石中学校が出場し、優勝を飾りました。8月4日の東北大会では、見事2位入賞。3年連続で全国大会出場という快挙を達成しました。団体は、菊地（きくち）ののかさん（3年）、小片茉伊香（おがたまいか）さん（3年）、針生樹里（はりうじゅり）さん（3年）、佐藤瑞穂（さとうみずほ）さん（3年）、朝野里彩（あさのりさ）さん（2年）の5人で構成。5人は、「2分30秒」という限られた時間の中、全体の構成の美しさや息のあった動き、音楽と身体と手具が一体となった動きが見どころのロープで華麗な演技を披露しました。

8月21日、町田市立総合体育館で開催された「第43回全国中学校新体操選手権大会」では、出場した28校中25位。レベルの高い大会となり、上位入賞を果たすことはできませんでしたが、自分たちの持てる力を存分に発揮しました。

3年生4人はこの大会で引退。キャプテンの菊地さんは、「3年連続で全国大会出場を果たすことができたのはコーチや先生、保護者の支えがあったからです。そして、仲間がいたからどんな時も乗り越えることができました。感謝しています」と笑顔を見せ、2年生の朝野さんは、「先輩から引き継いだ素晴らしいバトンをつなぎ、来年も全国大会へ出場できるように1・2年生が団結して頑張ります」と話し、次の目標に向けて決意を新たにしていました。

1_水泳教室終了後、中村さんと記念撮影　2・3_中村さんから手や足の使い方などの指導を受ける児童たち　4_シドニーオリンピックの銀メダルと銅メダル

シドニーオリンピック競泳女子100m背泳ぎ　銀メダリスト

中村真衣さんが福岡小学校で水泳教室を開催

どんなに才能のある人でも壁にぶち当たってくじけそうになる時がある
でも、あきらめずに、失敗を恐れずチャレンジすることが大切！

9月3日、シドニーオリンピック競泳女子１００ｍ背泳ぎ銀メダリストの中村真衣さんが福岡小学校を訪れ、「夢」をテーマにした講話と水泳教室を開催。トップアスリートとしての自身の経験を交えながら、児童たちに熱く語り掛けました。

小学6年生までバタフライの選手だった中村さん。本当はバタフライが嫌いだったことや、練習がつらくて本気で水泳をやめたいとずる休みをしたこと、そのことをコーチに話したことが転機となり背泳ぎに転向し、どんどん記録を伸ばしていったことなどを話しました。

アトランタオリンピックは、初出場ながら4位入賞。「メダルに届かずとにかく悔しい思いしか残らなかった」と話す中村さん。続けて、「ただ、この悔しさをバネにして厳しい練習に耐え記録を伸ばすことができた。シドニーオリンピックは目標にしていた金メダルではなかったが、自己ベストを更新し自分の力を出し切ることができた」と当時の思いを話しました。しかし、「自分も周りのみんなも次こそ金」と臨んだアテネオリンピックの代表選考会で落選し、「失意のどん底に急落した」と話す中村さん。引退も考えていた矢先の平成16年10月23日、新潟県中越地震で被災し、多くのボランティアやアスリートが支援に訪れているのを目の当たりにして、「もう一度奮起することでふるさとの人たちを勇気付けたい」と現役続行を決断。以降、平成19年に現役を引退するまで、世界のトップ選手として活躍されました。

中村さんは最後に、「この先、挫折することもあると思いますが、あきらめたら１００％達成できない。あきらめずに目標に向かってチャレンジしてほしい。そして、いつも笑顔で、あいさつができる人になってください」と児童たちに語り掛けていました。

PROFILE

なかむらまい　新潟県出身。4歳から水泳を始める。中学３年時の日本選手権100m背泳ぎで優勝。高校２年時の1996年、アトランタオリンピック100m背泳ぎで４位入賞。2000年のシドニーオリンピックでは100m背泳ぎで銀メダル、４×100mメドレーリレーで銅メダルを獲得。世界選手権には６大会連続で出場。2007年現役を引退。現在は水泳指導を中心に活動するほか、メディア出演や講演活動などでスポーツの魅力を伝えている。

※この教室は、文部科学省と公益財団法人日本体育協会の「子どもの体力向上啓発事業」の一環として開催されました。